解　説

第 ７ 章　　　建設・住宅

住宅の状況

総住宅数、空き家数とも増加　空き家率は15％

平成30年住宅・土地統計調査によると、総住宅数は468万200戸で、前回調査(平成25年)に比べ9万4,200戸(2.1％)増加しました。このうち、居住世帯のある住宅(普段人が居住している住宅)は394万9,600戸(構成比84.4％)、居住世帯のない住宅(普段人が居住していない住宅)は73万700戸(同15.6％)です。

空き家数は70万9,400戸で、前回調査に比べ3万600戸(4.5％)増加し、総住宅数の15.2％を占めています。

 総住宅数、空き家数・空き家率



[第7章17表より]

住宅の建て方

　５割強は共同住宅

平成30年住宅・土地統計調査によると、一戸建は160万7,400戸で住宅全体の40.7％、共同住宅は218万6,300戸で同55.4％です。

前回調査(平成25年)に比べ、一戸建は2万5,800戸(1.6％)、共同住宅は4万2,300戸(2.0％)、それぞれ増加し、長屋建は1,800戸(1.2％)減少しました。

 住宅の建て方別割合



[第7章13表より]

新設住宅着工

６万５千戸で『持ち家系』が５割強

住宅着工統計によると、令和２年に着工した新設住宅戸数は6万4,988戸で、前年に比べ5,014戸(7.2％)減少しました。このうち、持ち家(自己の居住用に建築)と分譲住宅(事業者が販売目的に建築)を合わせた戸数は3万6,333戸(構成比55.9％)で前年に比べ2,659戸(6.8％)、貸家・給与住宅は2万8,655戸で前年に比べ2,355戸(7.6％)、それぞれ減少しました。

新設住宅の総床面積は465万315㎡で、前年に比べ31万8,952㎡(6.4％)減少しました。

 新設住宅着工戸数、総床面積

[第7章7表より]

産業用建築物着工

製造業用、不動産業用で増加

建築着工統計調査によると、令和２年に着工した産業用建築物棟数は2,904棟で、前年に比べ557棟(16.1％)減少しました。産業別では、製造業用が455棟(構成比15.7％)と最も多く、次いで医療，福祉用が352棟(同12.1％)、卸売業，小売業用が314棟(同10.8％)です。

 産業用建築物(着工)の棟数及び床面積

[第7章5表より]